

基準 4 学生の受入

(1) 観点ごとの分析

4 - 1 教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜の基本方針が記載された入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、公表、周知されていること。

観点 4 - 1 - : 教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜の基本方針等が記載された入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、公表、周知されているか。

【観点到係る状況】

学士課程では、基本理念、目的に沿って、アドミッション・ポリシーを定め、学部・学科等（選抜区分）でも具体的に定めている。これらはウェブサイト（資料 4 - 1 - - A、資料 4 - 1 - - B）に掲載し学内外に公表している。また、入学者選抜要項、受験生のための大学案内及び学生募集要項（資料 4 - 1 - - C）の印刷物を九州圏内高等学校、志願者、文部科学省等に配布（別添資料 4 - 1 - - 1）して周知している。その他、毎年実施しているオープンキャンパス（別添資料 4 - 1 - - 2）、高校生等の大学訪問（別添資料 4 - 1 - - 3）、県内の高等学校長との教育懇話会（別添資料 4 - 1 - - 4）、鹿児島県大学・高校ガイダンスセミナー、留学フェア、進学説明会（別添資料 4 - 1 - - 5）等において、アドミッション・ポリシー、基本理念及び教育研究の特色等（資料 4 - 1 - - D）を周知している。なお、進学説明会は東京リエゾンオフィスでも実施している。研究科でも同様にホームページ上や募集要項等でアドミッション・ポリシーを明示し周知している。

資料 4 - 1 - - A

鹿児島大学アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

(<http://kss.kuas.kagoshima-u.ac.jp/nyushi/nyu/ap/ap-top.htm>)

1. 鹿児島大学の教育目標

鹿児島大学は、国際的視野にたった幅広い教養及び専門的知識・技能を身につけるとともに、深い歴史認識や鋭い現実感覚、そして高い公共意識に裏づけられた判断力と実践能力をもった社会人の育成をめざします。

特に、学生が地域社会の問題に果敢に取り組むことにより、失敗を恐れないチャレンジ精神と具体的構想力を向上させること、すなわち、「現場主義と創造的チャレンジ精神」を重視して教育を行います。

2. 鹿児島大学が求める学生像

鹿児島大学は、次のような学生を求めています。

1. 鹿児島大学の教育目標に共感し、それを実現できる基礎学力や考える力と意欲をもつ人
2. 人間としてのモラルを大切に、教養をより高めようとする人
3. 知的向上心に富み、専門職業人として社会に貢献することをめざす人
4. ボランティアやインターンシップをはじめ、広く具体的体験に積極的に取り組む意志をもつ人



(出典 鹿児島大学ウェブサイト)

資料4 - 1 - - B

ウェブサイトアクセス件数 (アドミッションポリシー)

ウェブサイトアクセス統計(平成18年1月～12月)

項目/URL	平成18年												計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
トップページ http://www.kagoshima-u.ac.jp/	159,221	146,885	197,241	201,867	160,099	172,850	165,251	139,838	169,658	176,391	145,609	137,558	1,971,968
学部入試 http://ks.ku.ac.kagoshima-u.ac.jp/nyushi/	18,370	47,283	23,547	7,574	7,533	8,371	8,569	7,492	8,313	8,713	10,706	9,999	166,470
アドミッションポリシー http://ks.ku.ac.kagoshima-u.ac.jp/nyushi/nyu/sp/sp-top.htm	0	244	514	396	522	638	642	307	304	275	340	255	4,437

(出典 鹿児島大学総務部作成)

資料4 - 1 - - C



(出典 学生募集要項)

資料4 - 1 - - D

受験生のための大学案内

鹿児島大学
2007 全学生のための大学案内

つづの道がある。11,000人の夢がある。

鹿児島大学の教育目標

鹿児島大学は、国際的視野にたった幅広い教養及び専門的知識・技能を身につけるとともに、深い歴史認識や鋭い現実感覚、そして高い公共意識に裏づけられた判断力と実践能力をもった社会人の育成をめざします。特に、学生が地域社会の門閥に果敢に取り組むことにより、失敗を恐れないチャレンジ精神と具体的構想力を向上させること、すなわち、「現実主義と創造的チャレンジ精神」を重視して教育を行います。

鹿児島大学が求める学生像

1. 鹿児島大学の教育目標に共感し、それを実現できる基礎学力や考える力と意欲をもつ人
2. 人間としてのモラルを大切に、教養をより高めようとする人
3. 知的向上心に富み、専門職業人として社会に貢献することをめざす人
4. ボランティアやインターンシップをはじめ、広く具体的体験に積極的に取り組む意志をもつ人

(出典 受験生のための大学案内)

【根拠資料欄】

別添資料4 - 1 - - 1

入試関係資料配付先一覧 (平成18、19年度)

別添資料4 - 1 - - 2

オープンキャンパス実施状況 (平成17、18年度)

別添資料4 - 1 - - 3	高等学校による大学訪問状況（平成13～18年度）
別添資料4 - 1 - - 4	鹿兒島県高等学校長との教育懇話会実施状況（平成18年度）
別添資料4 - 1 - - 5	進学説明会のお知らせ（平成19年度予定）

【分析結果とその根拠理由】

アドミッション・ポリシーは、本学の理念に基づき明確に定められ、ホームページ、各種印刷物の配付等により学内外に公表、周知している。

4 - 2 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入が実施され、機能していること。

観点4 - 2 - : 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実質的に機能しているか。

【観点到に係る状況】

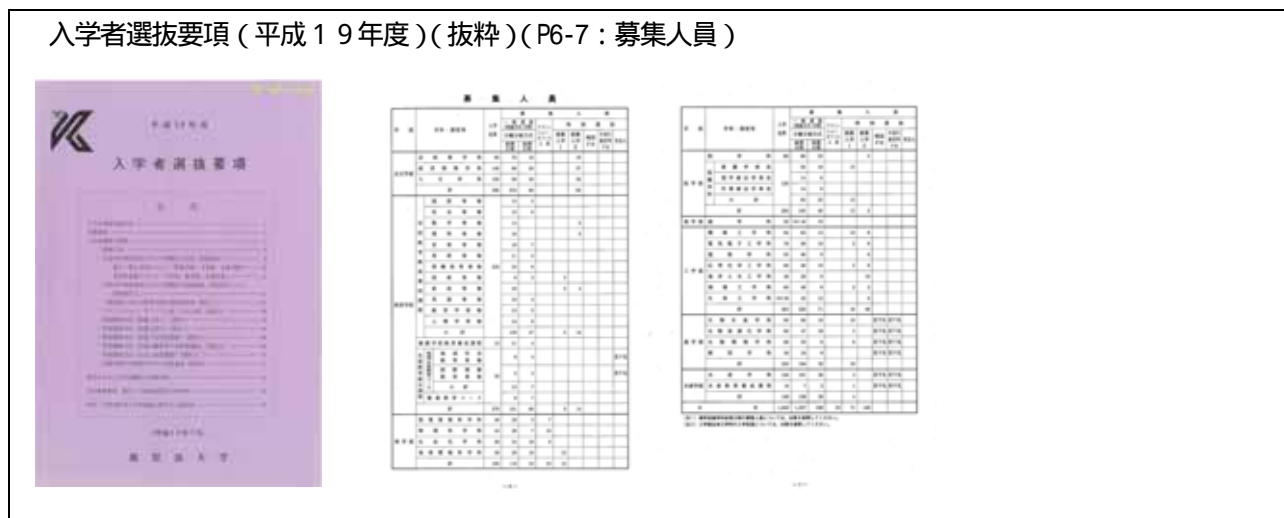
アドミッション・ポリシーに沿って適切な学生を受入れるために、学部、大学院で多様な選抜を実施（資料4 - 2 - - A、別添資料4 - 2 - - 1、別添資料4 - 2 - - 2、別添資料4 - 2 - - 3）している。

学士課程では、基礎学力を重視し、大学入試センター試験を課す一般選抜を実施しており、19年度入学試験までの前期日程では学力検査及び必要に応じて面接により判定している。後期日程では小論文及び面接等により、理解力、論理的思考力、表現力、本学の目的に対する意欲などを含めて総合判定している。他に、定員の約1割を対象に、意欲・適性等を重視した推薦入試とAO入試を行っている。推薦入試では、出願書類に調査書、推薦書等の提出を求め、小論文と面接等を行っている。理学部の数理情報科学科、物理科学科、生命化学科ではAO入試を実施し、小論文、面接、推薦書、適性実技、調査書等により総合判定している。

大学院課程でも、目的を達成するために定められたアドミッション・ポリシーに沿って学生を受入れている。修士課程（博士前期課程）では、一般選抜で学力検査（外国語・専門科目）、面接等及び学業成績証明書等により総合判定している。博士（後期）課程では、学力検査（外国語）、口述試験（面接）、研究業績等により総合判定している。

資料4 - 2 - - A

入学者選抜要項（平成19年度）（抜粋）（P6-7：募集人員）



（出典 入学者選抜要項）

【根拠資料欄】

- 別添資料4 - 2 - - 1 入学者選抜要項（平成19年度）
 別添資料4 - 2 - - 2 入試状況（平成15～9年度）
 別添資料4 - 2 - - 3 大学院募集要項（平成19年度 例示：大学院農学研究科）

【分析結果とその根拠理由】

学士課程の入学者受入は、基礎学力や考える力を測るための一般選抜試験、本学で学ぶ意欲や人物等を重視する推薦選抜やAO入試を適切に組み合わせて実施している。大学院課程では、修士課程（博士前期課程）、博士（後期）課程いずれでも面接が行われ、アドミッション・ポリシーに定める学生を適切に見いだすことに務めている。

以上から、本学の目的、アドミッション・ポリシーに沿って適切な学生の受入方法を採用し、実質的に機能している。

観点4 - 2 - : 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）において、留学生，社会人，編入学生の受入等に関する基本方針を示している場合には、これに応じた適切な対応が講じられているか。

【観点到係る状況】

学部、大学院では、留学生，社会人，編入学生（資料4 - 2 - - A）の受入等に関するアドミッション・ポリシーを定め、多様な選抜を実施している（別添資料4 - 2 - - 1、別添資料4 - 2 - - 2）。

特に、留学生に対しては、学士課程（私費）、大学院のそれぞれに留学生特別選抜を設けている。

社会人に対しても、学士課程、大学院（修士課程）、大学院（博士（後期）課程）のそれぞれに社会人特別選抜を設けている。

その他、帰国子女及び中国引揚者等子女に対して、学士課程に特別選抜を設けている。

資料4 - 2 - - A



(出典 各部局編入学募集要項)

【根拠資料】

- 別添資料4 - 2 - - 1 編入学生募集要項 (平成19年度 例示:工学部)
 別添資料4 - 2 - - 2 編入学等入試状況 (平成15～19年度)

【分析結果とその根拠理由】

留学生, 社会人, 編入学生の受入れに対しては、本学の目的、アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入方法を個別に設定し、本学の求める学生を受入れるための配慮がなされており、実質的に機能している。

観点4 - 2 - : 実際の入学者選抜が適切な実施体制により、公正に実施されているか。

【観点到に係る状況】

入学者選抜(資料4 - 2 - - A)は、入学者選抜管理委員会(資料4 - 2 - - B、別添資料4 - 2 - - 1)の下に実施している。大学入試センター試験の成績と個別学力検査の成績との比較・分析をするなどの入学者選抜方法検討委員会における改善等の提案を考慮したうえで、入学試験実施委員会が入学者選抜試験の実施計画、募集要項の作成を行っている。試験問題の作成は、入学試験実施委員会の下に置かれた問題作成・答案採点専門委員会が担当し、個別学力検査を実施する際には学力検査実施本部が置かれている。

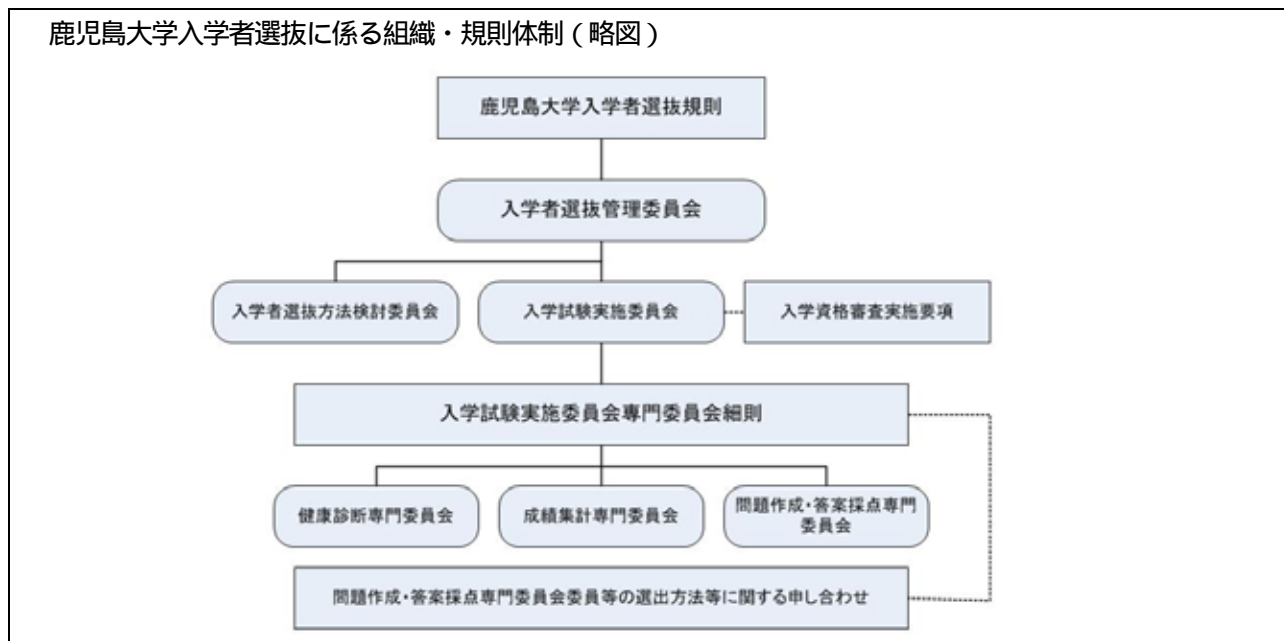
最終合格者の決定等は、各学部教授会又は各研究科委員会等が選考した合格予定者及び追加合格予定者等について入学者選抜管理委員会が行っている。

個別学力検査問題の作成は、各試験科目問題の作成を担当する十分な教育研究経験を有する教員により行われ、公正を保つため、入学試験問題作成に関わる情報を非公開としている。

試験にあたっては、問題作成委員会委員長及び問題作成責任者も学力検査実施本部要員に加わり、厳正に入学選抜を実施している。また、面接試験や実技検査では、試験教員を複数名で構成する等、公正に試験を実施している。

大学院の試験においても、学部と同様に研究科ごとに実施体制を整備し、公正に実施している。

資料4 - 2 - - A



（出典 鹿児島大学学生部作成）

資料4 - 2 - - B

鹿児島大学入学選抜規則（抜粋）

（http://hg.kuas.kagoshima-u.ac.jp/reiki_int/reiki_honbun/ax89001201.html）

（任務）

第3条 入試管理委員会は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 大学入試センター試験実施の基本方針に関する事項
- (2) 個別学力検査等及び編入学試験の基本方針に関する事項
- (3) 個別学力検査等試験実施及び編入学試験実施の基本方針に関する事項
- (4) 合格者等の決定に関する事項
- (5) その他個別学力検査等及び編入学試験に関する重要な事項

（設置）

第7条 入試管理委員会に、大学入試センター試験、個別学力検査等及び編入学試験の実施に関する具体的な事項を審議するため、入学試験実施委員会(以下「入試実施委員会」という。)を置く。

(任務)

第 8 条 入試実施委員会は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 大学入試センター試験の実施に関する具体的事項
- (2) 個別学力検査等の実施に関する具体的事項
- (3) 編入学試験の実施に関する具体的事項
- (4) その他入学者選抜及び編入学選抜実施に関する事項

(専門委員会)

第 12 条 入試実施委員会に、個別学力検査等及び編入学試験の実施に関する業務を行うため、次に掲げる専門委員会を置く。

- (1) 問題作成・答案採点専門委員会
- (2) 成績集計専門委員会
- (3) 健康診断専門委員会

2 専門委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(設置)

第 13 条 入試管理委員会に、個別学力検査等、編入学試験及び入試制度に関する調査・研究を行い、個別学力検査等及び編入学試験の内容及び在り方、大学進学情報の提供等に関する事項を審議するため、入学者選抜方法検討委員会(以下「入試検討委員会」という。)を置く。

(任務)

第 14 条 入試検討委員会は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 入学者選抜(編入学選抜を含む。以下この条において同じ。)結果の総合的な分析及び入学後の学業成績との相関・追跡調査・研究に関する事項
- (2) 入学者選抜方法の調査・研究に関する事項
- (3) 入学者選抜の広報活動に関する事項
- (4) その他入学者選抜方法に関する事項

(出典 鹿兒島大学入学者選抜規則)

【根拠資料欄】

別添資料 4 - 2 - - 1

入学者選抜各委員会議事要旨(平成 18 年度抜粋)

【分析結果とその根拠理由】

入学者選抜に係る実施計画等の作成、試験の実施、試験の採点及び合格者の決定の実施体制は、入学試験実施委員会を中心として組織しており、委員会間の連携も図られ、意思決定のプロセス・責任も明確である。

以上から、入学者選抜は適切な実施体制により、公正・公平に実施している。

観点 4 - 2 - : 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

【観点に係る状況】

入学者選抜結果の総合的な分析は、入学試験の結果、入学後の学業成績に関する追跡調査、高等学校長との意見交換等を踏まえて、入学者選抜方法検討委員会が中心となって行っている。これらの調査分析した結果を報告書（別添資料 4 - 2 - - 1）に取りまとめ、アドミッション・ポリシーの策定、学士課程入試での一般選抜の募集方法の改定などに資するようにしている。

これまで行ってきた調査分析に加え、特別選抜及び AO 入試、編入学試験等や大学入試センター試験でのリスニングテストについても、追跡調査、検証の必要があると考えている。

【根拠資料欄】

別添資料 4 - 2 - - 1 入学者選抜方法検討委員会報告書（訪問調査時提出）

【分析結果とその根拠理由】

入学者選抜方法検討委員会では、入学試験の成績、入学後の学業成績追跡調査、高等学校教員との意見交換等を踏まえ、入学者選抜方法について調査分析し、改善策を講じている。具体的には、学生募集要項や入学案内の記載事項の修正、合格通知書類発送用封筒の改善、試験問題の搬送方法の改善等を行っている。

以上から、本学の基本理念・目的に沿った学生の受入れについて検証し、その結果を入学者選抜の改善に役立てている。また、各学部がこれまで行ってきた調査分析に加え、特別選抜及び AO 入試、編入学試験等でも、追跡調査を行い検証している。

4 - 3 実入学者数が、入学定員と比較して適正な数となっていること。

観点 4 - 3 - : 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

【観点に係る状況】

この5年間の平均入学定員超過率（前述別添資料 4 - 2 - - 2）は、学部1年次入学の場合定員の1.07倍、編入学（学士を含む。）の場合1.36倍、大学院（修士課程・博士前期課程）では1.16倍、大学院（博士（後期）課程）では1.09倍、司法政策研究科では1.01倍、臨床心理学研究科では1.00倍の学生を受け入れており、全体としては、実入学者数が入学定員を大幅に超えたり下回る状況にはなっていない。

入学者数の改善に関する取組みは、役員等からなる大学運営会議において現状を把握し、定員過不足対策などを入学者選抜管理委員会（前述別添資料 4 - 2 - - 1）等で検討している。

【根拠資料】

なし

【分析結果とその根拠理由】

定員に対しての入学状況の数値から判断して、大学全体での入学定員と実入学者の関係は適正である。また、一部の学部・研究科の定員超過等に関しては、入学者選抜管理委員会において改善策を検討している。以上から定員と現員の関係は大学全体として適正であると判断される。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

全学的及び、学部・学科、研究科・専攻ごとにアドミッション・ポリシーを定め、ホームページ、受験生のための大学案内、入学者選抜要項及び学生募集要項に掲載し公表するとともに、多様な入試制度を採用し、多彩な学習歴を持った学生を幅広く受け入れている点は、本学の特色であり、優れた点である。

【改善を要する点】

特になし

(3) 基準4の自己評価の概要

本学の基本理念・教育目的に沿って、全学共通のアドミッション・ポリシーを明確に定めるとともに、学部・学科、研究科・専攻ごとに、より具体的なアドミッション・ポリシーを明確に定めている。これらは、ホームページに掲載するとともに、受験生のための大学案内、入学者選抜要項及び学生募集要項、関係機関への訪問等により学内外に公表、周知を図っている。

学生の受入れについては、本学の目的を達成するため、普通高校及び専門高校からの入学、短期大学、高等専門学校等からの編入学、留学生、社会人入学等、学部・大学院にわたり多様な学習歴に対応した入学試験を実施し、学力検査や小論文、調査書または成績証明書等により学力を判定するとともに、面接や調査書、推薦書などによりアドミッション・ポリシーに沿って適性を判定している。

入学者選抜の実施については、実施計画等の作成から試験問題の作成、実施、採点及び合格者の決定まで入学者選抜管理委員会を中心として実施体制を組織しており、意思決定のプロセス、責任も明確であり、適切な体制により、公正・公平に実施している。

入学者選抜の検証及び改善については、入学者選抜方法検討委員会が、入学試験の成績、入学後の学業成績に関する追跡調査、高等学校長との意見交換等を踏まえて行っている。また、これらの結果を「入学者選抜方法検討委員会報告書」として取りまとめるなど、入学者選抜方法の改善に役立てている。

実際の入学者の状況については、一部の学部、研究科では、定員を超過しているところもあるが、大学全体として見た場合、入学定員を大幅に超える、又は下回る状況にはなっておらず、入学定員と実入学者数の関係は適正である。

